

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	警察本部 生活安全部
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム		
施策名	【重点】犯罪抑止対策の推進		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	刑法犯認知件数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	9,249	9,157	9,065	9,000
現況値	9,436件/年(2019年)	実績値	7,535			
目標値	9,000件/年	達成率	※122.7%			
備考		達成度	5			

3 関連する事業名

- ・地域の情勢に応じた犯罪抑止対策の推進
- ・防犯ボランティア等との連携強化
- ・子供・女性をはじめとした人身の安全を確保するための対策の推進
- ・国際化支援・広報活動事業
- ・子ども見守り防犯カメラ設置支援事業
- ・犯罪被害者等支援金支給事業

4 施策達成レベル

5.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

防犯ボランティアをはじめ、自治体、地域住民、犯罪の起きにくい社会づくり推進・応援企業等と緊密な連携を図りながら、県民総ぐるみで各種犯罪抑止対策を推進した結果、2021年の刑法犯認知件数は7,535件と、19年連続で減少し、戦後最少を更新した。

6 今後の施策推進に向けての課題

刑法犯認知件数は継続的に減少しているものの、自転車盗や侵入窃盗等、県民の身近で発生する犯罪が依然として後を絶たないことから、引き続き、防犯パトロールや効果的な広報啓発活動等による犯罪抑止対策と検挙活動の両輪による総合的な対策を推進していく。また、防犯ボランティアに対する活動支援の充実や事業者、行政機関と連携した各種取組等を推進し、ボランティア活動のさらなる活性化を図っていく必要がある。

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	警察本部 刑事部
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム		
施策名	【重点】捜査の高度化・科学化等の推進による犯罪の徹底検挙		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	殺人、強盗等の重要犯罪検挙率	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	100.0	100.0	100.0	100.0
現況値	93.9% (2019年)	実績値	101.0			
目標値	100.0%	達成率	101%			
備考		達成度	※5			

3 関連する事業名

- ・重要犯罪等の徹底検挙に向けた捜査基盤の高度化事業
- ・重要犯罪等への対処に向けた通信指令システム等の高度化事業
- ・特殊詐欺等の徹底検挙に向けた捜査基盤の高度化事業

4 施策達成レベル

5.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

重要犯罪の100%検挙を目指し、犯罪関連情報の分析強化と迅速・的確な初動捜査を徹底するとともに、防犯カメラ映像、DNA型資料等の客観証拠の解析・鑑定結果を活用し、捜査・鑑識・科学の各部門が一体となった捜査を展開した結果、2021年中は、和気郡和気町地内における殺人・死体遺棄事件、総社市内及び倉敷市内で発生したコンビニ持凶器強盗事件等を検挙するなど、重要犯罪の検挙率は101.0%（全国順位10位）と、2年連続で目標値を達成した。

6 今後の施策推進に向けての課題

引き続き、重要犯罪の100%検挙を達成するため、事件認知時には大きく立ち上がり、迅速・的確な初動捜査を展開して、犯人の特定や犯罪の立証に資する客観証拠の収集を徹底するとともに、犯罪関連情報や防犯カメラ映像等の活用、捜査システムを活用した分析、DNA型鑑定等を積極的に実施するなど、捜査の高度化・科学化を強力に推進していく。

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	警察本部 交通部
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム		
施策名	【重点】交通事故防止対策の推進		

2 生き活き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	人身交通事故件数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	4,100	3,800	3,500	3,300
現況値	4,690件/年(2019年)	実績値	4,683			
目標値	3,300件/年	達成率	※87.6%			
備考		達成度	3			

3 関連する事業名

- ・交通安全施設の整備
- ・高齢者への参加・体験・実践型の交通安全教育等をはじめとした交通事故防止対策の推進
- ・可搬式速度違反自動取締装置を活用した速度抑制対策

4 施策達成レベル

3.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

交通事故死者数の約6割を占める高齢者に対しては、運転免許証の自主返納を促進する「おかやま愛カード」事業をはじめ、ドライブレコーダーを活用した個別指導、交通安全体験車「おかやまふれ愛号」を派遣しての参加・体験・実践型の交通安全教育等を行い、自身の身体機能低下の自覚を促したほか、可搬式速度違反自動取締装置を活用して、通学路や生活道路の安全確保に向けた交通指導取締りを強化するなど、すべての道路利用者のマナーアップに重点を置いた交通事故防止対策を推進した。また、これらに合わせて、信号機や道路標識等の交通安全施設の整備等を行った結果、2021年中の交通事故死者数は57人(前年比-5人)と、昭和24年以来72年ぶりに60人を下回った。

6 今後の施策推進に向けての課題

2021年中、交通事故死者数は前年より減少したが、人口10万人当たりの交通事故死者数は全国平均を上回っており、減少傾向にあった人身交通事故件数及び負傷者数が前年比で増加に転じるなど、県下の交通情勢は厳しい状況にある。こうした情勢を踏まえ、今後も引き続き、すべての道路利用者のマナーアップに向けた取組を行っていくほか、可搬式速度違反自動取締装置等を活用した交通指導取締りや、「おかやま愛カード」事業のさらなる拡充、ドライブレコーダーを活用した個別指導等、高齢者の行動特性に応じたきめ細かな取組を推進していく。加えて、交通規制や信号運用の見直し、「ゾーン30プラス」の設置に向けた関係機関への働きかけ等により、安全で快適な交通環境を整備していく。

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名

担当部課室 警察本部 生活安全部

重点戦略	III 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム
施策名	【推進】特殊詐欺対策の推進

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	特殊詐欺の認知件数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	100	100	100	100
現況値	125件(2017~2019年の平均値)	実績値	114			
目標値	100件	達成率	※87.7%			
備考		達成度	3			

3 関連する事業名

- ・幅広い年齢層に対する被害防止広報の徹底
- ・金融機関等と連携した水際対策の推進
- ・身近な人を守る気運の醸成に向けた取組の推進
- ・消費者教育啓発促進事業

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

2年以上発生がなかった還付金詐欺が25件発生したことなどから、2021年中の特殊詐欺の認知件数は114件と、前年に比べて12件増加した。一方で、被害額については、被害防止広報、水際対策及び身近な人を守る気運の醸成を柱とした「三本の矢」作戦を推進重点とする「だまされんのじゃ岡山県・県民運動」による各種被害防止対策を推進した結果、約3億2,780万円となり、前年に比べて約1億9,220万円減少した。

6 今後の施策推進に向けての課題

依然として、特殊詐欺の被害者の大半が高齢者で占められていることから、広報誌やケーブルテレビ等の各種媒体を活用し、高齢者に重点を置いた効果的な広報啓発活動を強化するとともに、防犯機能付き電話の普及促進や留守番電話機能の活用に向けた取組を推進する。また、金融機関、コンビニエンスストア等との連携を強化し、官民一体となった水際対策を推進するとともに、高齢者を取り巻く関係機関・団体や子ども・孫世代に対し、相談しやすい環境の整備に向けた働きかけを行っていく。

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	警察本部 生活安全部
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム		
施策名	【推進】 少年非行防止対策の推進		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	小・中・高等学校（義務教育学校、中等教育学校を含む）における非行防止教室の実施率	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	100.0	100.0	100.0	100.0
現況値	100.0% (2019年)	実績値	68.3			
目標値	100.0%	達成率	68.3%			
備考		達成度	2			

3 関連する事業名

- ・「心と命の教育活動」の推進
- ・規範意識向上、再非行防止対策の推進

4 施策達成レベル

2.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、非行防止教室の全校開催が困難な状況の中、警察官OBである非行防止教室専門員による非行防止教室等を可能な限り実施するなど、規範意識向上対策を推進した。その結果、2021年中に検挙・補導した刑法犯少年は417人（前年比-46人）であり、非行率は2.2人（前年比-0.2人）であった。特に、非行率は9年連続で過去最少を更新するなど、県下の非行情勢は改善傾向を維持している。

6 今後の施策推進に向けての課題

県下の非行情勢は改善傾向を維持しているものの、非行率はいまだ全国ワースト上位であるなど、依然として厳しい状況にある。さらなる改善を目指し、学校等と連携した効果的な非行防止教室の開催等により、児童生徒の規範意識の向上を図っていく。

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	県民生活部 暮らし安全安心課
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム		
施策名	【推進】消費者被害の防止等の推進		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	見守り力アップ講座受講者数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	360	820	1,280	1,740
現況値	438人(2019年度)	実績値	299			
目標値	1,740人(4年間累計)	達成率	83.1%			
備考	目標値は2021~2024年度の累計	達成度	3			

3 関連する事業名

・消費者行政活性化事業

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

民生委員など、地域において高齢者等の見守り活動を行っている方が属する団体を対象として、最新の消費者被害に関する情報や見守りのポイントなどに関する講座を実施することにより、地域における消費者被害への対応力の向上を図ることができた。令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、受講者数を制限したり、講座そのものを中止せざるを得ない状況であったことから、一部の講座をオンライン形式での実施に振り替えるなど、受講環境の改善に努めた。その結果、目標値として掲げる受講者数には到達しなかったものの、令和2年度の実績(213名)を上回る299名を集めて実施することができた。

6 今後の施策推進に向けての課題

「第4次岡山県消費生活基本計画」において、「消費者安全確保地域協議会(高齢者等の消費者被害を防止するための地域の見守りネットワーク(以下「見守りネットワーク」という。))」を令和7年度末までに10市町村で設立することを目標としていることから、引き続き、見守り力アップ講座の開催により、地域の見守り力の底上げを図りつつ、各市町村における見守りネットワーク構築を呼びかけるとともに、その設置支援に努める。

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	警察本部 生活安全部
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム		
施策名	【推進】サイバー空間の安全確保に向けた取組の推進		

2 生き生き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	サイバー犯罪被害防止セミナーの受講者数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	3,400	3,400	3,400	3,400
現況値	1,874人(2020年)	実績値	2,763			
目標値	3,400人	達成率	81.3%			
備考		達成度	3			

3 関連する事業名

- ・サイバーセキュリティ意識向上対策の推進
- ・サイバー犯罪に対する取締りの推進

4 施策達成レベル

3.0	生き生き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

体験型コンテンツを活用したサイバー犯罪被害防止セミナーの開催等による効果的な広報啓発活動に努めた結果、セミナーの参加者から、「最近はいろいろなサイバー犯罪が出てきているので、今回紹介してもらった手口については、よく注意していきたい」、「突然警告画面が出て慌てないことや、安易にメールの添付ファイルやURLをクリックしてはいけないことがよく分かった」等の声が寄せられるなど、参加者のセキュリティ意識が向上し、被害防止に大きく寄与した。

6 今後の施策推進に向けての課題

サイバー犯罪の手口や技術の動向等を考慮しながら、より分かりやすい効果的な広報啓発に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえつつ、幅広い年齢層を対象としたセミナーや講演等を実施し、さらなるサイバー犯罪被害の防止に努めていく必要がある。

2022年度 施策評価シート(2021年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 警察本部 刑事部
重点戦略	Ⅲ 安心で豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	暮らしの安全推進プログラム
施策名	【推進】暴力団をはじめとする組織犯罪対策の推進

2 生き活き指標(推進施策の指標)の進捗(達成)状況

指標名	暴力団対策法の適用件数	年度	2021	2022	2023	2024
		目標値	8	8	8	8
現況値	6件(2019年)	実績値	8			
目標値	8件	達成率	100%			
備考		達成度	4			

3 関連する事業名

- ・拳銃・特殊犯罪対策の推進
- ・暴力団排除活動推進事業
- ・暴力団離脱者就労受入企業に対する損害補償事業

4 施策達成レベル

4.0	生き活き指標又は推進施策の指標の達成度を平均して施策達成レベルを算出
-----	------------------------------------

5 施策推進による主な成果

銃器対策では、暴力団関係者等から拳銃3丁を押収したほか、県内の高校生を対象とした違法銃器根絶キャンペーンポスターの募集・掲示を行うなどの広報啓発活動を推進した。薬物対策では、SNSを利用した広域的な覚醒剤等密売事件等を検挙したほか、パンフレット等を活用して薬物乱用のないまちづくり活動を展開した。特殊犯罪対策では、実戦的訓練を実施し、対処能力の向上に努めた。暴力団対策では、六代目山口組対立抗争に伴う拳銃発砲事件等105件を検挙したほか、津山市を新たに警戒区域に設定するなどして、抗争の封圧を図った。また、事件捜査に連動し、暴力団対策法等に基づく行政命令、勧告を計8件発出したほか、暴力団排除協議会等における暴排講演を17回実施した。

6 今後の施策推進に向けての課題

銃器対策では引き続き、違法銃器根絶に向けた広報啓発活動を推進するとともに、暴力団等が管理する武器庫の摘発に努める。薬物対策では、大麻事犯における若年層の占める割合が顕著であることから、厳正な取締りに加え、違法薬物の危険性や有害性に関する正しい知識の普及に向けた広報啓発活動を推進する。暴力団対策では、六代目山口組をめぐる対立抗争に伴い、暴力団情勢はいまだ予断を許さない状況にあることから、組織的な情報収集活動を推進するとともに、先制的な取締りによる主要幹部の検挙、暴力団対策法等の効果的な運用、資金源犯罪の検挙等を強化し、暴力団の壊滅・弱体化を図る。また、企業等に対する情報提供を迅速かつ適正に行うとともに、暴力団からの離脱及び社会復帰支援を促進するなど、総合的な暴力団対策を推進する。